

直方市文化芸術審議会 第1回会議 議事録

日 時	令和7年12月16日（火）16：00 ～ 18：00
場 所	本庁舎8階大会議室
出席者	小島 立 （会長） 牛嶋 英俊 （副会長） 市川 靖子 （委員） 曾根 富久恵 （委員） 棟形 和義 （委員）
（事務局）	直方市長、文化・スポーツ推進課長、社会教育係長、社会教育係職員
傍聴者	1人
議題	1．文化芸術審議会について 2．文化芸術振興計画について

直方市文化芸術審議会 第1回会議 議事録

<p>◎議事録 (事務局)</p>	<p>1. 開式</p> <p>定刻になりましたので、ただ今より第1回文化芸術審議会を開催いたします。</p> <p>それではまず、辞令交付を行います。</p> <p>(辞令交付)</p> <p>小島 立(こじま りゅう)様 牛嶋 英俊(うしじま ひでとし)様 棟形 和義(むねかた かずよし)様 曾根 富久恵(そね ふくえ)様 市川 靖子(いちかわ やすこ)様</p> <p>なお、もう一名 鷺野 彰子 様を委嘱させていただいておりますが、本日ご欠席となっております。</p> <p>つづきまして、直方市長 大塚 進弘よりご挨拶申し上げます。</p> <p>(市長挨拶)</p> <p>大塚市長、ありがとうございます。大塚市長は、次の公務のためここでご退席されます。</p> <p>それでは、審議会委員の皆様をご紹介させていただきたいと思います。事務局がご紹介をいたしますので、一言ご挨拶いただければと思います。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>(各委員の紹介)</p> <p>それでは、最初にご紹介させていただきます。小島立先生は、九州大学の教授で、文化政策や地域文化論を専門とされています。全国での文化振興計画策定や文化政策研究に豊富な実績をお持ちです。</p> <p>次に、鷺野彰子先生をご紹介します。福岡県立大学の准教授で、音楽学や芸術実践論を専門に、音楽表現や音楽教育に関する研究を行っておられます。子どもの音楽表現や教育現場との関わりにも力を入れており、音楽的・教育的視点からもご貢献いただけると期待しています。なお、今回はご欠席となっております。</p> <p>次に、牛嶋英俊さんをご紹介します。直方郷土研究会の会長として、郷土の歴史や文化遺産の保存・継承に関する専門的な知識をお持ちです。地域史の普及と啓発に貢献しておられます。</p>

直方市文化芸術審議会 第1回会議 議事録

	<p>次に、棟形和義さんをご紹介します。直方文化連盟の会長として、長年にわたり市民文化団体の統括的な役割を果たしておられます。地域文化団体の現状や課題について豊富な知識をお持ちです。それでは、一言ご挨拶をお願いします。</p> <p>次に、曾根富久恵さんをご紹介します。筑豊美術協会の副会長として、美術分野の地域文化創造や発表活動において重要な役割を果たしておられます。芸術活動の振興や人材育成の視点からご意見等いただきたいと考えております。</p> <p>最後に、市川靖子さんをご紹介します。直方市美術館の学芸員として従事されており、美術館での子どもスタッフ事業をはじめ、市内の青少年文化活動や教育文化事業を多数担当しております。</p>
(事務局)	<p>(会長・副会長の選任)</p> <p>つづきまして、直方市文化芸術振興条例施行規則第5条におきまして、審議会の互選により会長及び副会長を置くとしております。会長、副会長に、立候補される方はいますでしょうか。</p> <p>いないようなので、会長、副会長の選任につきまして、事務局から提案させていただきますのでよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、会長には小島立さん、副会長には牛嶋英俊さんを提案させていただきますが、いかがでしょうか。</p>
(委員)	<p>異議なし。</p>
(事務局)	<p>異議がないようですので、会長には小島立さん、副会長には牛嶋英俊さんにご就任いただきます。よろしくをお願いいたします。それでは、ここから、会長の小島立さんに進行をお願いいたします。</p>
	<div>2. 議題（1）</div>
(会長)	<p>それでは、早速議事に入ります。</p> <p>「（1）文化芸術審議会について」事務局から説明をお願い致します。</p>

(事務局)	<p>それでは、資料①についてご説明をさせていただきます。文化芸術審議会について、まずは条例についてご説明をさせていただこうと思います。今年の9月の議会におきまして、直方市文化芸術振興条例を制定しております。</p> <p>その内容について簡単にご説明をいたします。</p> <p>直方市文化芸術振興条例は、野方市が文化芸術活動に親しみ、創造的な生活を送るための環境を整えることを目的としております。市民・民間団体等及び市がそれぞれの役割を果たし、地域の伝統芸能や文化財の保存と活用を進めるといった内容でございます。</p> <p>市は、文化芸術振興計画を策定し、市民や団体と連携して活動を支援します。条例の中におきまして、今回策定します文化芸術振興計画、その策定にあたりまして、こちらの審議会での審議をしながら進めていくという形となっております。</p> <p>続いて、この文化芸術振興条例の目的でございます。文化芸術振興条例の第七条に基づきまして、文化芸術振興における基本的な理念や施策の方向性を定めることが、この計画の主な目的となります。市民・民間団体・市がそれぞれの役割を担い、文化芸術活動を促進することで、地域の個性を生かした文化の形成と発展を目指したいと考えております。</p> <p>続いて、文化芸術振興計画策定に向けた過程として、五段階で記載をしております。まず一点目が、全体の方向性の確認と課題の整理ということで、計画策定の目的と必要性を共有させていただきまして、現状の課題や問題点をお最初に整理していこうと思っております。</p> <p>先ほど小島会長の話でもありましたが、いろいろな現状や活動されている皆様の現状、課題などといったところをしっかりと把握をしていきたいというふうに考えております。</p> <p>二点目として、現状分析とニーズの調査ということで、市民や関係者のニーズを把握し、現状の強み、弱み等を分析していきたいというふうに考えています。市民の声や関係者の方など、ここに参加されていない、様々な活動されている方のご意見等を聞かせていただきながら、現状を把握していきたいというふうに考えております。</p> <p>三点目、計画案の作成ということで、基本理念や目標を設定し、具体的な施策案を議論します。計画の中でどこまで具体的な施策を記載するかというところはありますけれども、どういったことが必要になってくるのかといったところをこの審議会の中で議論できればというふうに考えております。</p> <p>四点目、計画案の詳細化ということで、実施計画を具体化し、詳細なスケジュール等を整理します。実施計画を具体化というところで、どこまで具体性を持たせていくかは審議会の審議の中で進めていく形となりますが、これか</p>
-------	--

直方市文化芸術審議会 第1回会議 議事録

	<p>ら進めていく中で、方針を議論していきたいと考えております。</p> <p>五点目で完成案の承認ということで、完成した計画案を皆さんの審議を受け、事務局の方で整理をした上で、最終的に審議会の中で最終的な確認をいたします。その後、市民や関係者に向けてパブリックコメントも含めて発表していくというような流れになっていこうかと思います。</p> <p>以上のようなフローを持って計画の策定を目指していきたいと考えております。この文化芸術振興計画は、直方市の豊かな文化資源を生かして、市民一人一人が創造的に参加できる環境を整えることを目指します。</p> <p>委員の皆様の指導のもと、現在の骨組みである計画案をより具体性を持ちながら、市民全体が文化芸術に親しめるまちづくりにつながる計画作りに努めていきたいと考えております。</p>
(会長)	<p>今ご説明いただいた内容につきまして、委員の皆様ご質問やご意見はありますでしょうか。</p>
(委員)	<p>今後どのくらいのスパンで会議は開催されるのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>今後の予定としましては、こちらの審議会を5～6回程度実施したいと考えております。期間としましては、年度を超えて令和8年度に入り、5月6月7月等、月に一回程度、計画案の作成まで約半年程度を想定しております。進捗によっては前後することがあるかと思いますが、最終的にはパブリックコメント等も実施して、来年10月ごろを目指していきたいと考えております。</p>
(委員)	<p>こういった審議会の場に参加するのが初めてなのですが、審議会で議論した内容はどこまで守秘義務がありますか。資料をファイリングして職場で保存するようなことはしても問題ないですか。</p>
(事務局)	<p>審議の途中の情報になりますので、公に出すということは控えていただきたいですが、特に嚴重に管理するといったようなところまでは求めておりませんので、職場の方で保存していただくことには構いませんので大丈夫でございます。</p>
(委員)	<p>この点、確認させていただきたいのですが、国の審議会とかですと、議事を書き起こしたりして、その後皆様のご発言を修正していただいたものがウェブに上がったりして、大体あの方がこういう発言をしたとか分かってしまうものですが、今回のこの直方市の文化芸術審議会につきましては、そのよう</p>

直方市文化芸術審議会 第1回会議 議事録

	<p>な形でまとめて、ウェブサイト等を通じて公表をされたりしますか。</p>
(事務局)	<p>審議会の中での議論につきましては、当然公開をしていこうと考えております。発言された委員さんの名前まで出すかどうかについては皆様のご意見も頂戴しながら検討させていただきまして、審議会の中でこういった議論が行われたのかにつきましては、オープンにしていきたいと思っておりますので、審議会が終わって一定期間空いて、委員の皆様へ発言の内容の確認が終わった後にホームページ上に公開をする予定にしております。</p>
(委員)	<p>文化芸術振興条例の7条とはどのような内容なのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>第7条におきまして、市は文化芸術の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、文化芸術振興計画を策定するということで記載をしております。2項では、振興計画には、文化芸術の現状及び課題、施策の基本的な方向等を定めるものとするということで、項目についての定めがあります。3項としまして、市長は振興計画の策定に当たって、直方市文化芸術審議会に諮問するものとするということで、市長から審議会の方に計画策定についての議論を求めるという形になっております。</p> <p>以上が第7条になります。</p>
(委員)	<p>文化連盟は月に2回、役員を招集して会議をしております、この文化芸術審議会につきましても、役員共々非常に関心を強く持っております。</p> <p>去年実施された、市長と語る会もしましたので、文化行政について様々な意見、思いを託されております。おそらく今からはそういった会議のたびに進捗を尋ねられるかと思いますが、どこまで共有していいのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>ここからの審議の途中経過について、審議の内容については共有していただいて構いませんが、計画案ができるまでは、様々なご要望や現状、課題であるとか文化連盟でたくさんあるかと思しますので、そういった情報を審議会の場に上げていただいて、それについてこの場で議論していくこととなりますので、進捗についてはお答えいただいて構いません。</p>
	<p>3. 議題 (2)</p>
(会長)	<p>それでは文化芸術振興計画について、事務局よりご説明をお願いします。</p>

(事務局)	<p>事務局の方で議論の元となる素案を準備させていただいております。こちらはあくまで素案ですので、自由にご発言していただければと思っております。</p> <p>それでは、計画案につきまして、ご説明の方をさせていただきます。まずです、「はじめに」というところで、この計画の方向性等を、最初にご説明をするような内容として記載をしております。</p> <p>本計画は、直方市における文化芸術の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための指針となるものです。</p> <p>文化芸術は、人々の創造性を育み、豊かな人間性を育むとともに、人々の心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力のある社会を形成する源泉となるものです。また、地域社会の基盤を形成し、人々の生活の礎となり、彩りと潤いを与えるものとして必要不可欠です。</p> <p>近年の社会状況の変化、特に新型コロナウイルス感染症の拡大は、文化芸術活動に大きな影響を与えましたが、同時に文化芸術の持つ本質的な価値が改めて認識される機会ともなりました。こうした状況やデジタル化の進展、多様性包摂性、持続可能性といった価値観の普及を踏まえ、直方市総合計画や直方市 SDGs 未来都市計画、直方市デジタル田園都市国家、国家構想総合戦略、国の文化芸術推進基本計画及び福岡県の文化芸術振興計画との整合性を図りつつ、本市の、本市の実情に応じた文化芸術の振興を目指します。</p> <p>ということで、この計画において目指すところを記載させていただいております。</p>
(会長)	<p>それではこの案について、何かご意見ご説明がございますか。</p>
(委員)	<p>今までこの条例がなかったことが不思議ですよ。いろんな団体がいろいろな活動をしている中で、今までなかった。このタイミングで条例が策定された経緯を教えてください。</p>
(事務局)	<p>文化芸術振興条例は、今年の 9 月議会で提案し、制定に至りました。それまで文化芸術を振興に取り組んでいなかったわけではないですが、やはり取り組んでいく上での指針となるものが必要だということで、国、県の動向も踏まえて進めております。</p> <p>令和 3 年度に県が策定して以降、県内でも各市町村において条例の制定等が促されている中で、本市は県下で 7 番目の制定になります。今回この計画を策定するに当たりまして、その前に市としての方針といった条例を制定す</p>

直方市文化芸術審議会 第1回会議 議事録

<p>(委員)</p>	<p>るべきだという考えから、改めてその文化芸術振興条例というような条例化まで踏み込んだということです。</p> <p>直方市の文化政策に関して、全国の動向を調べたところ、地方自治研究機構の「文化政策に関する条例」というページに、全国の都道府県や基礎自治体の文化政策がまとめられていることが分かりました。この資料は12ページ程度で、内容をPDFで確認できます。</p> <p>文化政策は、昭和50年代から市町村で始まり、2001年の文化芸術振興基本法、2013年の改正法、2017年の文化芸術基本法を契機に、自治体の整備が進みました。現在、多くの自治体が条例を整備しており、全国的に増加傾向にあります。</p> <p>直方市においても、他自治体の成功事例を参考にしつつ、状況を踏まえて良い条例案を作成していくことが重要ではないかと思っています。私もできるだけ多くの情報を収集し、良いものは積極的に取り入れたいと思っています。</p> <p>(会長)</p> <p>他にご意見がないようですので、続いて第一章のご説明を事務局からお願いいたします。</p> <p>(事務局)</p> <p>では、第一章 計画の基本的な考え方ということで、まず基本計画策定の背景と目的というところでございます。</p> <p>直方市は、福岡市と北九州市という2つの政令指定都市の間に位置し、鉄道や高速道路など交通の要衝としての機能が充実している強みを持っています。人口減少社会が進む中で、市民一人一人が心豊かに、そして地域全体が活力を持って生活できるまちを実現するため、文化芸術の持つ力を最大限に活用することが求められています。</p> <p>本計画は、直方市の文化芸術の現状と課題、そして市民の芸術文化芸術に対する要望を踏まえ、文化芸術活動の促進、文化資源の保存・活用、文化芸術を通じた地域活性化などを図ることで、直方市の目指すまちのビジョン及びSDGsの達成に寄与することを目的としております。</p> <p>続いて直方市における文化芸術の現状と課題です。直方市の市民意識調査からは、高齢者福祉、保健・医療、子育て支援、学校教育、中心市街地の活性化といった項目が上位要望として挙げられており、これら市民生活に身近な分野と文化芸術の連携を強化することが重要になると考えております。</p> <p>また、健やかに育ち、いつまでも生きがいを持って生活できるまち、時代の変化に対応できる力を育むまち、多文化共生社会の推進といった直方市の目</p>
-------------	--



直方市文化芸術審議会 第1回会議 議事録

	<p>指す姿の実現に向けて、文化芸術がどのように貢献できるのか、具体的な策を検討する必要があります。</p> <p>他の自治体の計画から類推しますと、市民が多様な文化芸術に触れ、体験する機会の充実、文化芸術活動を支える人材の発掘・育成、地域の文化資源の保存、活用、情報発信、市民と行政の連携強化などが課題として考えられます。</p> <p>最後に計画の期間ということで、今回策定します計画につきましては、期間は5年間としたいと考えております。第一章のご説明は以上になります。</p>
(会長)	<p>この進行計画の基本的な考え方ということにつきまして、何かこの点についてご意見ご質問がございましたら、ぜひお願いいたします。</p>
(委員)	<p>文化連盟では、一回だけ市長と語る会もやったんですが、それっきりにならないように、ぜひこういった語る会やこの審議会を通してコミュニケーションのやりとりを続けていかないと、私たちが思うような文化共生は難しいと思うから、ぜひこのコミュニケーションを頻繁にやるようにしていただきたいと思います。</p>
(事務局)	<p>文連の加盟団体さんはかなり数いらっしゃいますので、その加盟団体さんから、様々な要望であるとか課題であるとか、意見をお伺いしたいと考えております。そのために代表として意見をここで述べていただけますと幸いです。</p> <p>頂いた意見につきまして、この場で審議した内容は適宜市長の方にもご報告いたします。市長と語る制度ですが、毎年実施しても構わない制度でございますので、そういったのも活用していただければというふうに思います。</p>
(委員)	<p>文化施設についても、美術館だけでなく図書館やユメニティのおがたも含め、改修計画などが迫っていて、自分たちの事業との兼ね合いや建物の改修の影響、今後の計画についてなどが施設を運営するスタッフの中で共有されてないということがあり、なかなか市と足並みが揃いづらくて、意見が対立しやすいような場面もあったりするので、そうではなくお互いいいところを生み出せるような方向性でお話ができるといいのかなと思います。</p>
(事務局)	<p>市内文化施設が老朽化をしております、特に美術館に関しては大変ご迷惑をおかけしているところです。</p> <p>12月の市報にも掲載しました、美術館の別館になりますが。昨年行った耐</p>

直方市文化芸術審議会 第1回会議 議事録

	<p>震診断の結果、年度末で営業を終了するという事で話を進めておりましたが、諸事情によりまして前倒しになり、12月の末で一時的に休館することになりました。</p> <p>これによりまして、ガラス館といったようなあの役割で、美術館別館として活用されていた部分や電話ボックスを活用した小さな美術館という形でしてたあの企画展もできなくなっているというようなところもございます。</p> <p>それとあわせまして、本館につきましても同じく老朽化に伴いまして、年度末での休館を決めて今進めているところです。本館につきましては、今後のスケジュールが確かに明確にお示しできていないところがございます。</p> <p>今が予算編成の時期になりますので、そういったところの目途が立ってくると、今後のその予算を伴う改修に関する部分がお答えできるようになるかと思っておりますので、そういったところは早め早めにお答えできるようにしていきたいと思っております。</p> <p>やはり現場の方の意見がないと、こういった運用をするのが効率的なのかというところは我々では及ばない部分でございますので、この審議の場で様々な課題を挙げていただきながら、対応策と一緒に考えていければと思いますので、ぜひいろいろな意見を聞かせていただければと思います。</p>
(委員)	<p>私はその筑豊美術協会の副会長という立場で、この場に臨んでおりますが、筑豊美術協会が繁栄すればいいだけではないとは思っていません。</p> <p>やっぱりいろんな団体やそれに関わっている市民の方々が幸せになればいいっていう観点から話し合いを続けた方がいいのかなとは思っています。もちろん谷尾美術館のことについても普段からよく利用してますので、今後のことは憂慮してますし、文化連盟の方々の活動もよく存じ上げてますが、自分のところの団体だけを考えるんじゃなくて、全てのことを考える方向性で、進めた方がいいんじゃないかなと思っています。牛嶋先生の郷土研究会のことも、常に関心を持っておりますが、とにかく、市民全体が盛り上げていくためには、文化芸術業界だけが良くなる方法を考えていくだけではだめではないかと思いますが、いかがでしょうか。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。我々もやはり、様々な意見を聞きながら、この文化芸術というものが人々の創造性を育み、豊かな人間性を育むとともに、人々の心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力ある社会を形成する源泉となるものですとい、初めにでも述べておりますが、それぐらい文化芸術は人々の心を豊かにするものだというのは、しっかり認識をしております。今回新型コロナウイルスが拡大して、その文化芸術がぐっと抑え込まれた時に、そ</p>

	<p>の大切さを皆さん感じたと思います。</p> <p>それは我々行政もかなり感じました。人とのつながりがなくなってしまったという話も聞いておりますし、我々中央公民館で主催している講座等も参加する方、講座を開く方、そういった方々が減ってきたという現状がございます。</p> <p>それは市民にとって活動の場がかなり削減されたような形になっていると思いますので、そこを盛り返していきたいというような思いもございます。</p> <p>委員がおっしゃる通り、市民全体に、波及できるような計画にしていきたいというふうに考えておりますので、この場ではそれぞれの専門分野の方がございますので、そういった意見も聞きながら、足りないところは審議会に専門の方を招聘して意見を聞くというようなことも考えておりますので、審議の中でそういった意見が必要だということをおっしゃっていただけるのであれば、ここに参加していない団体さんの意見を聞くような場も設けていきたいというふうに考えております。</p>
(委員)	<p>委員おっしゃったように我々はそれぞれの所属団体に利益代表で来てるわけではなくて、審議員として来てるわけなので、当然その先にご発言なさるだろうと思うので、それはそれでよろしいのかなと思います。</p> <p>私が所属している郷土研究会はやはり歴史資料館が欲しいという意見が多くあって、そういったことについても審議という形を取りたいなと思っております。</p>
(委員)	<p>文化芸術は非常に裾野が広いですし、私もだいぶ年齢が上がってまいりまして、学生諸君と接してますと、明らかにについていけないところというのが出てきておりまして、例えば最近よく聞くeスポーツというのは必ずしも若い人がやるゲームだけではなくて、実はその高齢者の方々の活力を伸ばすというふうなことを考えておられる自治体も、大阪の泉佐野などあったりしまして、美術館、ミュージアムに行く、歴史資料館に行く、図書館に行くというのが、文化芸術というとなくまず目に付きがちですが、様々な世代・属性の方々のいろんな活動に関わるのではないかと思っておりますので、やはり計画作っていくときにはそういう視点は必要だと思っております。私も一番大事にしてる声なき声を拾いたいといつも思ってるんですけども、なかなかそれが難しく、アンケートすればいいわけでもないですから、そこをどういうふうにして丁寧な拾いながら、ある程度期限もあると聞いておりますので、そこをどういうふうに両立するかということで、ぜひ委員の皆様方のご意見もお伺いしながら、あるいはその現場の皆様方と繋いでいただいたりしながら</p>

<p>(会長)</p>	<p>ら、やっていけるといいなというふうに個人的には思っております。</p> <p>他にご意見ありますでしょうか。なければ、続いて第2章のご説明を事務局からお願いいたします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>第2章計画の基本理念と目指す姿ということで、まず基本理念です。直方市の文化芸術振興は、以下の基本理念に基づき推進します。(1)文化芸術活動への市民の権利と参加の促進ということで、文化芸術を創造し、および享受することは、人々の生まれながらの権利であることに鑑み、性別、年齢、障害の有無や国籍、経済的な状況、居住する地域にかかわらず、誰もが文化芸術に親しみ、その豊かさを享受できる環境づくりを目指します。</p> <p>それから、(2)文化芸術活動を行う者の自主性創造性の尊重と活動基盤の強化ということで、文化芸術活動を行う者の自主性および創造性が十分に尊重され、その能力が十分に発揮されるよう配慮するとともに、担い手の不安定な状況を改善し、持続可能な形で活動が継続できるよう、活動基盤の強化を図ります。</p> <p>(3)地域固有の文化資源の保存、活用および次世代への継承というところで、本市には魅力的な有形無形の文化財、伝統芸能、伝統行事、生活文化が数多くあり、各地で盛んに行われており、これらの地域固有の文化資源の保存、活用および継承を図り、地域の一つとして価値を高めます。本市の伝統芸能等、継承がなかなか難しくなっている部分がありますので、しっかり継承していきたいというふうに考えております。</p> <p>(4)文化芸術の力を生かしたまちづくりと社会課題の解決への貢献、文化芸術は、市民等の生活に潤いと豊かさをもたらすだけでなく、教育、福祉、健康、医療、観光産業等の地域経済の活性化、市のイメージ向上につながる力を有していることを踏まえ、今後のまちづくりや多様性、包摂性、持続可能性といった社会課題の解決に貢献するよう活用します。</p> <p>市民の要望が高い高齢者福祉、保健、医療、子育て支援、学校教育、中心市街地活性化といった分野との連携を特に強化します。</p> <p>(5)多様な主体との協働による推進ということで、文化芸術の振興にあたっては、市民、民間団体、行政に加え、芸術家や国、県、他市町との広域的な連携主体、国外の文化団体等との多様な協働を推進します。</p> <p>続いて2.目指す将来のまちの姿ということで、文化芸術を通じて、以下の将来のまちの姿の実現を目指します。文化芸術が息づき、誰もが生き生きと輝きながら、多様な交流と連携によって新たな価値が生まれ続けるまち。これは直方市が目指す人と人をつなぎ、地域と地域をつなぎ、デジタルの力</p>

	<p>を使って魅力的で未来へとつないでいくことができる持続可能なまちの実現に貢献するものです。</p> <p>具体的には、健やかに生きがいを持って生活できるまち、時代の変化に対応できる力を育むまち、多様多文化共生社会の推進。誰もが快適に生活できるまち。安全安心を実感できるまち、魅力ある地域づくりのため、みんなで連携するまち、新たな魅力づくりに取り組むまち、技術革新に取り組み成長するまちといった目指す姿と連携を図りながら、SDGsの達成にも寄与します。ということで、こちらに挙げているまちは、本市の各計画の中で目指すまちを記載しております。</p>
(委員)	<p>市民の方たちが、以前からグループを組んで町おこしをやってますよね。直方市を盛り上げようという意識で、活動してらっしゃる団体とか個人の方をよく存知上げてますが、その方たちの力をもっと活用できないかと思うんですね。現状その活動がですね、バラバラにちょっとなってる感じがします。</p> <p>それをつなぐのが市の役目ではないかなと思ってますので、そういったところも考えてほしいと思います。</p>
(事務局)	<p>市内で活動していただいている方々を集めて、大きな輪にするっていうのも大事なことだと考えております。市内で活動されている方々は、それぞれの思いを持っていらっしゃって、分野としてはそれぞれあるとは思いますが、観光分野であるとか、福祉分野であるとかというようなところで、いろいろな団体が活動されているというのは存じ上げております。</p> <p>今回基本理念の中の(5)、多様な主体との協働による推進ということで、文化芸術の振興に当たりまして、あの市民だけではなく、そういった民間の団体様と連携をしながら、どういった分野でどういったことができるのかというところも少し触れていきたいなと思っております。</p> <p>その中で、特に市民意識調査をした中で関心が高い項目として、高齢者、福祉、子育て、中心市街地の活性化が市民の方の、意識、関心が高いところになります。ここの分野で活動されている団体さんいらっしゃいますので、文化芸術を通して、社会課題の解決にもつなげていくことを連携して行っていければと思っておりますので、方向性もある程度示すことがこの計画の中でもできるのではないかなと思っておりますので、ぜひそういったご意見で、もう少し詳しく掘り下げるような形でもいいのかなというふうに考えております。</p>
(委員)	<p>今事務局の方からご説明ありましたけども、市民の皆様の関心の高い施策</p>

	<p>があるはずで、それと文化芸術をどうやって掛け合わせていくかということだと思いますね。そうだとすると、先ほどおっしゃられたように、例えばまちづくり、一生懸命熱意を持ってやっておられる熱量の高い方がいらっしゃると、例えばそこにその文化関係の皆様と、ある種一緒になっていただいて、思いを聞きながら、ここだったら自分たちも何かできるかもとか、これは文化芸術に関わるんじゃないのと、お互いに気づきがあって、それによって初めてお互いに連携していくのかなと思います。どうやってそういう場を作っていくかっていうのは、委員の皆様のご意見な、あるいはもっと広く市民の皆様のお聞き合いでもしながら、そういう場も計画を作っていくプロセスでできるといいかなというふうに個人としては思ったりしました。</p>
(委員)	<p>私が長年活動しているバンドを活用して昔の歌声喫茶をやってます。昭和時代の歌を二十八回ですね。これはやっぱりあちこちからお声を聞いたら、これは単なる歌声喫茶だけじゃなく、高齢者の元気回復じゃないかと。そういうふうに言いますね。だから来ている人はみんな高齢者なんです。高齢者が僕らの演奏に合わせて、みんなで大きな声で歌う。こういった活動が何かにつながっていけたらと思います。</p> <p>ただ、三十回になる来年末でもうやめようかなというふうにしています。文化が健康につながるというメッセージを出せる良い活動なのでもったいないですが。</p>
(委員)	<p>そういう文化＝健康というようなキャッチコピーがあってもいいと思います。今お話を伺っていて、市役所の問題にも実はなってくるかと思ひまして。今回所管というか、一応やっておられるのは、文化・スポーツ推進課になると思うのですが、こちらは福祉関係に関心があるけれども、あちらは文化関係には関心を持ってくれないというような縦割りの問題があるといったことも別のところでよく聞きます。こういった文化＝健康というような方向性を示すのであれば、福祉関係課の方にも一緒に会議に入ってもらってどういうことができるのか、手法などを話していくことが必要だと思います。関係しておられる皆様をつなぐと同時に、そこに市役所の例えば福祉であったら、福祉の方にもそういう関心を、政策を作る側にも持っていただくっていう、そういう仕掛け作りみたいなのがあると、より今のようなお話がスムーズに進むのかなと思ったりしました。</p>
(事務局)	<p>福祉とかっていう分野であれば関心が高いところでもありますので、ぜひ次回開催する際に、福祉の職員も同席するような形で、高齢者向けなのか、障</p>

直方市文化芸術審議会 第1回会議 議事録

	<p>害者も含めてなのかというところがあるかと思いますが、ある程度我々も方向性があれば、該当課職員に同席してもらい、どういうことができるのか、現状として今どういうことをやっていて、それがどう文化芸術と結びつけれるのかといったところも踏まえて、情報を共有するように同席してもらい、意見を聞くということは可能になるかと思います。</p>
(委員)	<p>この課題は、高齢者向けの中心市街地のバリアフリーの活性化などのように様々な面に関与してくるのではないかと考えております。イベントを行うにしても、バリアフリーがないと、高齢者が参加しにくいというように、いろんな課からの視点を組み込んで議論していくことがいいのかなと思います。</p>
(事務局)	<p>事務局の方でも検討させていただき、より具体的な議論ができるように、可能な限りいろんな課に出席をお願いしていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。</p>
(委員)	<p>ありがとうございます。他に第2章で何か質問はございませんか。</p>
(委員)	<p>私は趣味で、俳句をしていまして、直方市が生んだ野見山朱鳥。全国的に有名な俳人ですが、直方市谷尾美術館で行っている展示会や野見山朱鳥を顕彰する全国俳句大会のようなイベントもなく、今まで市として大きく取り上げられてなかったと思います。</p>
(事務局)	<p>ご指摘のように、今まで野見山朱鳥先生の顕彰する様なイベントや俳句大会というのは行っていないのが現状です。過去についてはわかりかねるところなのですが、最近であれば、林芙美子先生の顕彰は文連さんの方でやっていただいておりますが、野見山先生については市としても取り上げることができていません。市出身の方に焦点を当てることは、文化を見直す意味でも必要かなと思いますので、具体的な取り組みも踏まえ、この場を借りて検討していければと思います。</p>
(委員)	<p>野見山朱鳥さんに関する何を何もしなかったとあったが、市として成人式の際に野見山さんの歌集をプレゼンで用いたようなことがあったような気がします。現在記念館はなく、後継者の方が野見山先生の俳句だけでなく、油絵のなどの収蔵作品を公的な場で、紹介できるような機会を行政が検証できるような場があるといいなと思います。</p> <p>また、阿部王樹先生のいところで、阿部先生の作品を所蔵として引き継ぎ、公</p>

直方市文化芸術審議会 第1回会議 議事録

	<p>民館で配布や展示を行っていた方が亡くなってしまい、家族は奥さんしかおらず、あまりそういったことに興味がないみたいです。この作品を市の方でという話が以前からあったが、どうなっているのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>作品はたくさんあればあるほど嬉しいのですが、収蔵庫の問題があり、もっと大きな所蔵庫があれば、歴史資料として収蔵品を預かることができます。また、石炭記念館からも大きな壁画を保存する場所が館内になく、収蔵庫にという風に言われましたが、やはり入る場所が足りないという問題があります。市の持ち物は安全な場所で長期的に保存できることが望ましいのですが、一回保存したものを、処分することはなかなか難しく、増える一方で、大きな収蔵庫が欲しいなと日々思っております。</p>
(委員)	<p>資料館などに保存しないと、このままだと誰かが持って行ってしまいますよ。筑豊文庫は図書館にあるように、俳句のような文書も図書館に置けるようにしていただきたいです。</p>
(事務局)	<p>所蔵庫につきましては新設したいところですが、現状増やすことはなかなか難しいところです。ただ、牛嶋委員からもありましたが、現状問題はその美術品とかも含めて、歴史資料館にという話もあり、歴史に関する資料が保存されず、いろんなところに散逸しているため、今後なくなってしまうのではないかという心配事も承っています。</p> <p>市の方針として、予算で必要な施設についての要求というのは今後も行っていくますが、みなさんご存じ通り、美術館や石炭記念館も含め文化施設老朽化も進んでいます。石炭記念館につきましては、国の史跡指定になり、ようやく整備が進んできており、そちらに予算を振り分けるような形になっているので、文化芸術に使えるお金がある程度狭まってきている現状です。今後の文化施設の配置計画では、今回谷尾美術館のアートスペースの方は休館となりますが、本館は整備が進む話があり、その中で収蔵品を置けるスペースを設けてほしいというような話がありましたら、計画の中で盛り込むことも可能です。</p> <p>また、石炭記念館につきましても、整備の中で現在倉庫はあるのですが、一定数収蔵品を保存できるような倉庫を国の補助金を活用しながら整備していきたいと考えております。石炭記念館に保存されている文章は非常に貴重なものですので、傷みが進まないように整備の整っている図書館の方で保存するような形になっています。すぐに解決するような問題ではないのですが、施設の整備に向けて準備も行っていきたいと思っています。</p>



直方市文化芸術審議会 第1回会議 議事録

(委員)	<p>やはり直方市の強みは石炭記念館のような過去の遺跡。私が所属する文化政策学会の理事や会長、副会長であった方たちが、全国の振興計画を作ることに関わっているが、その中で同僚にあたるものが言っていたことは、よほどお金のある自治体でないと、住民のご理解を得られず、自治体の歴史や偉人を全方位化できない。逆に言うと、そういう選んだものに関しては、きちんと守り、語り継いでいくことが大切。私もそうだが、やはり多くの若者は、俳句なんてと思うと思います。そういう若者たちに、これがどういう風に君たちに関わって、学ぶことができるということを伝えていかないと、文化が好きな人たちが、ただ好きなことだけやっているとされるため、歴史的遺物がいろんな分野に関わることを、たくさんの方々に実感してもらえるような戦略が必要だと思います。</p>
(事務局)	<p>審議会の中でも、直方市の強みなどは確認していきたいなと思っております。やはり石炭記念館は、直方市の歴史において外すことのできないコンテンツであり、教育の中でも、小学校では社会科見学で必ず行くような形にしています。そういった形で、子供たちにも直方市の文化と歴史について学び、知っていただく機会を設けています。休日に記念館に来ていただければいいのですが、なかなか難しいため、まずは知ってもらうところからはじめております。やはり教育とのつながりは文化を継承していく中では大事になると考えておりますので、そういった部分も議論できたらなと思います。</p>
(会長)	<p>それでは第3章をご説明いただいてもよろしいでしょうか。</p>
(事務局)	<p>第3章は、目指す将来のまちの姿を実現するために、以下の重点施策に取り組みますという方向性です。</p> <p>3-1の誰もが文化芸術に親しめる環境づくりでは、性別、年齢、障害の有無や国籍等にかかわらず、あらゆる人々が身近な場所で文化芸術に触れ、鑑賞し、参加できる機会を拡充します。学校教育や社会教育と連携し、特に子どもたちが文化芸術に継続して親しむ機会を確保します。子育て支援の観点からも、子どもや若い世代向けの文化芸術プログラムを充実します。高齢者、障害のある人、在留外国人など、多様なニーズに対応した文化芸術活動を促進し、誰もが参加しやすい環境を整備します。高齢者福祉や多文化共生の推進に文化芸術を積極的に活用します。文化施設のバリアフリー化や作品等の音声、文字、手話等による説明提供を促進します。地域の公民館や学校、医療施設、福祉施設など、身近な場所での文化芸術プログラムの実施を促進します。医</p>

療、保健医療や福祉との連携を強化します。

3-2 多様な文化芸術活動の担い手育成と支援で文化芸術活動を行う個人や団体の自主的な活動を尊重し、その持続可能な発展を支援します。芸術家、技術者、伝統芸能伝承者など、幅広い分野の担い手の育成確保を多面的かつ長期的に検討推進します。文化芸術分野の特性を踏まえた働き方改革や適正な契約関係の構築を促進し、担い手の活動基盤強化を図ります。担い手や市民活動団体等への財政的支援、情報発信支援、相談体制の整備を充実します。市民ボランティアの育成活用を促進し、文化芸術活動や文化資源の保存・活用における市民参画を進めます。

3-3 地域の文化財、文化資源の保存と活用。我が国の文化財、伝統芸能、伝統行事、生活文化など、地域に根差した文化資源の価値を再認識し、その保存、継承および推進、継承および活用を推進します。文化財の防災防犯対策および計画的な保存修理を推進します。無形文化財や伝統行事等の伝承者育成や用具原材料の確保を支援します。地域の文化資源に関する調査研究、情報収集、発信を行い、市民の関心と理解を深めます。文化資源を地域活性化や観光振興に活用する取組を促進します。特に中心市街地の活性化と連携した文化資源の活用を検討します。

4. 文化芸術による地域活性化と多様な交流連携の推進文化芸術の持つ創造性や交流の力を生かし、地域の活性化や多様な主体との連携を推進します。文化芸術イベント等の開催や文化施設、公共空間、民間施設等の多様な場を活用し、賑わいを創出するとともに、市民や来訪者の交流を促進します。中心市街地活性化に資する文化芸術イベントの企画実施を促進します。直方市の地理的優位性を生かし、国内外との文化交流を推進し、地域の魅力を発信し、インバウンド促進につなげます。交通ネットワークを生かした生活利便性の向上と連携を図ります。教育、福祉、医療、産業、観光など様々な分野と文化芸術との連携を強化し、地域課題の解決や新たな価値創造に取り組みます。市民の要望が高い子育て支援、高齢者福祉、保健医療、学校教育と文化芸術を結びつける施策を推進します。デジタル技術を活用した文化芸術の情報発信、鑑賞体験機会の提供、ネットワーク構築を推進します。デジタルの力を使って文化芸術によるまちづくりを進めます。

5. 計画を推進するための体制強化と基盤整備本計画を実効性のあるものとするため、推進体制の強化と基盤となる環境整備を進めます。市民民間団体と文化芸術関係者行政がそれぞれの役割を果たし、対等なパートナーとして協働できる体制を構築します。多様な声の反映に努めます。文化芸術担当部局に加え、環境関係部局が一体となって施策に取り組むよう、庁内連携を強化します。行政内部の変革、DXと連携し、効率的な推進体制を目指します。

	<p>文化施設等の機能強化、計画的な維持整備を進め、市民の文化芸術活動の場としての充実を図ります。老朽化対策やユニークベニューとしての活用も視野に入れます。多様な資金調達を含む財政基盤の強化に努めます。行政内部のDXを推進し、効率的な行政運営に資するよう努めます。以上、第3章になります。ありがとうございました。何かご質問がございましたら是非お願いいたします。</p>
(委員)	<p>3-2に市民ボランティアの育成活用を推進するとありますが、私以外は先ほど紹介しましたが、直方文化ボランティアを続けて28年目くらいです。当初は勢いがあるって50人くらい集まり、市民ボランティアが、いろんな文化芸術のユメニティのイベントの時に、チケットもぎりや座席案内、突発的な対応までいろんな研究を勉強しました。例えば当時、クラシックの演奏で演奏が終わってないのにもかかわらず拍手をするようなことが目立ちましたが、今ではそういったことはなくなっていった。だからこそ、そういった市民ボランティアの育成に力を入れていってもらいたい。現在ユメニティ直方文化ボランティアに残っているのは、5人くらいです。事務局の方にも早く若い人材を入れて育成してほしいと伝えているが、もう間に合わなかったみたいですね。N響のような大きなコンサートは、民間の人を雇わなければいけなくなりますね。それによって経費はかかるし、直方市の文化レベルとしてもよくないです。ほとんど高齢者ばかりですから、若い人材に入ってもらえるような工夫や、方策などをユメニティの方に進めてもらいたい。</p>
(事務局)	<p>市民ボランティアは、文化芸術に限ったことではなく、全庁的に市民ボランティアが不足しています。以前は概ね60歳で定年退職をして、その後元気なうちに地域活動ができる方が非常に多かったのですが、今では生涯現役というように、それがだんだん後ろ倒しになってきていて、高齢の方でも忙しい方が増え、自治会や地域活動等に参加できる方が少なくなっていることが大きな要因だと考えています。ただ、市民意識調査の中では文化芸術に関心がある方は多い現状があります。関心があると答えた方が多いので、興味はあるが何をしたらよいかわからないという方や、我々が届け出ている方々に向け、どう届けるのかっていうのは非常に難しい問題ですが、市内にはやはりまだまだボランティアで頑張りたい方、地域に貢献してくれる方はたくさんいらっしゃると思うので、そこにアプローチできるように、我々も一生懸命に考えていきたいと思っています。</p> <p>図書館ボランティアであれば、割と若い方で協力してくれている方もいらっしゃるんで、参考にできる点は参考にしていきます。分野が違っても中々集</p>

	<p>まりにくいということもありますが、ボランティアの方の若返りを図れるように、皆さんが安心して世代交代ができるような体制作りも必要かなと思っていますので、重要施策の一つとして挙げておりますので、進めてまいりたいと思います。</p>
(委員)	<p>ボランティアの方々に支えられている行事は多いからこそ、有料ボランティアっていうのも考えてみてはいかがですか。ただ単に無償でボランティアをしてくださいっていうのは、あまりにも人間の美德に委ねられているので、例えば、ボランティアをしていただければ、金銭的なことではなく、何かのチケットお渡しするような工夫があればいいのではないのでしょうか。</p> <p>単に行政が民間の人をただ働かせているだけだという批判的な立場の人がいるが、やりがいや達成感、自分を高められたと思えるような精神的に充足するようなボランティアのあり方を考えてほしいです。以前図書館でボランティアを行い、一定時間行くと、市長から表彰状をもらえて、それがものすごく嬉しいって言っていた人もいたように、誰かに認められ評価されるということはいいいと思います。</p>
(委員)	<p>谷尾美術館では、視覚障害者にむけた彫刻展のような活動を行っているから、それに対し何か補助ができないか考えていただきたいです。</p> <p>片山先生との企画はよかったと思います。国立の民族学博物館の盲目の先生が、ミュージアムというものは視覚的に多くの物に頼りすぎているという本を出されているのですが、そういったことは非常に私も大事なことだと思います。</p>
(事務局)	<p>先ほどやりがいという言葉が出ましたが、最近ボランティアについてやりがい搾取という言葉が結構ございまして、結局やりがい搾取しているのではないか、単に酷使されて搾取されているだけではないのかというように思ってしまう若者が多分いるのではないかと思います。私もボランティアについては非常に大事なことだと思いつつ、やりがい搾取と思われるとやはり抵抗感が出てくると思いますので、どういさじ加減で行っていくのかという点も議論させていただければと思います。</p>
(委員)	<p>補足ですが、私、宮若市にも関わってまして、宮若市には歴史ボランティアさんがいらして、年間を通してボランティア講座や歴史ボランティア講座、地域の歴史などの講座をしてくれています。そのようなボランティアは自分たちの勉強にもなり、歴史などの知識が広まっていくというような取り組み</p>

直方市文化芸術審議会 第1回会議 議事録

	を行っていますところはあります。
(会長)	ありがとうございます。他にありませんか。お願いします。
(委員)	現在、直方健康福祉センターが新設されましたが、その中に料理教室はあるのでしょうか。
(事務局)	料理が可能な調理スペースというものはございます。ですが、料理教室というものが対象なのかは分かりかねるところですが、調理スペースを活用して事業を行うことは可能だと思います。
(委員)	私が幼いころに中央公民館で親と参加する料理教室に参加した記憶があります。また、今回壊れた共同参画センターで私自身講師として、夏休みに子どもたち向けに草木染教室を長年行っていました。そのような学校教育の子どもたちに対する教室や料理教室などの文化がなくなってしまうのは残念だと思っております。
(事務局)	委員のご指摘通り、以前男女共同参画センターというものが中央公民館の隣にあり、その中に料理設備があったため、そこでかつて料理教室が行われていました。今回、保健福祉センターの整備に伴って、センターを崩す形になり、市民のために色んな体験活動を提供しようという会でも人気の講座である料理教室も実施できなくなりました。市としては、直方ガスに料理設備があり、そこをお借りして料理教室を実施するような形にしています。そこで何とか料理教室は続けることができていまして、多くの方に参加していただいています。また我々も料理は文化だと思っておりますので、今回保健福祉センターにできるのは保健福祉に関して作る料理教室になるのではないかと考えており、使用範囲が広がるのかはまだ分かりかねるところです。
(会長)	ありがとうございます。その他、第3章全体におきまして、ご質問等ありましたら是非お願いいたします。
(委員)	3-2の文化芸術活動を都道府県や団体に委ねられる活動を続けて、持続可能な活性化に向けてとあるのですが、芸術者、技術者、伝統芸能伝承者などの担い手がいらっしゃると思うのですが、その方たちの審査はあるのでしょうか。芸術家だと勝手に名乗るような人がいるかもしれないため、行政として審査や育成確保などの支援をしていくための、審査基準のようなものはどの

	<p>ように決めているのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>今回、計画の方向性として、実際に我々の主催講座も含め、いろんなことを提供してくださる芸術家や技術者、伝統芸能を各地域で広めている方たちをどのように残していくのか、どういう方向性で行くのかが出ましたら、その後に実際に具体的にどうしていくのかということに入っていくような形になると思います。また、金銭面的なサポートをするというような方法もありますし、活動の場として公共施設の優遇措置など、こういった形でサポートできるかということは、具体的に考えていく必要はあるかと思います。全ての方を網羅することは難しい部分ではあるのですが、まずは方向性として、活動を続けられるようなサポートとして何ができるのかも含め、今後も検討してまいります。</p>
(委員)	<p>例えば現代の名工や伝統工芸の産地などが、様々な形で直方市にあるものもサポート対象になるという理解で間違っていないのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>ハードルをどこまで上げるのかも含め、今後審議をしながらある程度方向性を出せればなと思っております。工芸やものづくりに直接かかわりを持つ委員さんや団体等に会員でおられる方はいらっしゃいますか。</p>
(委員)	<p>私はろうけつ染めを50年以上やっていますが、日本には染色文化がずっとあり、日本工芸会の伝統工芸展には現在ろうけつ染めというものはありません。出品者がいないことや、ある時期ろうけつ染めが止まった時期があることが原因で、ろうけつ染めは伝統工芸家の中では、切られているような存在です。インドネシアから伝わったジャワ更紗の技術は尊重されていますが、私たちが行っている絵画的なろうけつ染めは、一応は工芸だと思います。</p>
(委員)	<p>私も以前学生と一緒に香川の藍染めを見に行きましたが、非常に素敵なものだと思っておりました。また教えていただきたいです。</p>
(委員)	<p>技術支持みたいな話が出てきたが、直方は焼き物が盛んなまちですから、石原先生が直方市民だったが、宮若に行ってしまったのは文化の喪失です。直方市にとっては、石原さんは大きな文化でしたし、私は文化の方にまで関係してきたので、それ以上どの項目を挙げてどういう風に現実していくのかなと思いました。それ以外にもお願いしたいことばかりなのですが、以上です。</p>

直方市文化芸術審議会 第1回会議 議事録

(事務局)	<p>ありがとうございます。文化財の保護資源の保存と活用ですが、既に行っているようなこともたくさんあります。今月には文化財の消防訓練も行っていますし、これらを継続し、残していくためにはこういったことが必要になってきますので、その方向性を記載させていただいております。その中で取り組みが進んでいない部分は、黒丸の3つ目や4つ目です。上二つに関しては実際に行っているような部分です。</p> <p>本市では、例えば水町遺跡という古墳時代の遺跡があり、人骨が出土し、価値のある遺跡という風に理解しているのですが、近隣の古墳と同時公開を行っても、全国から人は来られるのですが、市内の方はいないという現状です。そのような問題には、我々の発信不足や市民の関心をつかめていないというところが非常に大きいと思っておりますし、そのような資源を地域活性化や観光振興のような分野に活用できていないということが非常に多くあります。石炭記念館は比較的全国から人を集めることに成功している事例だと思いますが、それ以外については中々進んでいないのが現実です。これについては特に力を入れていきたいと思っておりますので、今回項目に挙げさせていただいておりますので、アイデアや考えなどここで審議させていただきながら進めていきたいなというふうに考えています。</p>
(委員)	<p>ありがとうございます。他にございますか。</p>
(委員)	<p>現在、生涯教育というところで幅広くなってくるのかなと思うのですがいかがですか。</p>
(事務局)	<p>その話で行きますと、来年度からの新しい講座の取り組みといたしまして、高取焼の歴史を学ぶような講座というものを作ろうとしております。今までは子どもたち向けに焼き物教室という形で実施して非常に人気のある講座ではあるのですが、それと別に現役世代である大人の方が直方市の歴史である高取焼という歴史を通じて、直方市を知ってもらおうという取り組みができればということで、大人向けの高取焼の歴史講座というものを作ようとしていますので、そのようなイベントを少しずつ取り組みながら、直方市の歴史を知ってもらい関心を持っていただきたいなというふうに考えています。</p>
(委員)	<p>織部高取焼を行っている方と古高取を伝える会と2つあると思うが、この先どのようにしていきたいと思いませんか。</p>

直方市文化芸術審議会 第1回会議 議事録

(事務局)	<p>高取焼に携わる団体として、九州桃山茶陶会と古高取を伝える会という 2 つの団体があることは承知しています。2 つの団体が目指しているところが違うこともあって、一緒に活動できていないのが現状だと感じております。なので、我々としても、色んな団体が連携することで、新しいものが生まれてくるようなことも考えられると思いますので、同じような活動をされている団体が互いに協力するというのは、非常にあってほしい姿だとは思っていますので、協力する団体が増えるように、今回何か仕組みを作ろうという話も出ているので、今後も考えていきたいと思っておりますが、目指すところが違うのでなかなか難しいかと思います。</p>
(委員)	<p>しかし、高取焼を愛することは変わらないですね。</p>
(委員)	<p>はい。仏教で言うと言旨が違いうように、やはり宗派が違いと難しいです。</p>
(委員)	<p>そうですね。私も学生に話している中で、若い人たちの工芸に対する関心は極めて低いと言われまして、そこで私は名刺入れて印伝を用いて、授業内で工芸品を使って見せるようにしています。工芸についても若い方を中心に、工芸品がかっこいいと思っていただけるような仕掛けをどうやって行っていくかということをずっと考えております。</p>
(事務局)	<p>是非また何かご意見やご注意等ありましたら、お伺いさせていただきたいと思ひます。</p>
(委員)	<p>工芸会も会員が徐々に減っています。私も博多の伝統工芸館の館長とお話をしたり、授業に来ていただいていたのですが、1975 年が博多伝統工芸のピークでした。今では売り上げが博多織や博多人形の 5 分の 1 なのか 10 分の 1 なのか 20 分の 1 なのか分かりませんが、惨憺たる状況だということは聞いております。先ほどの話に戻るのですが、このように反目しあっている場合で、例えば博多織で、過去に日本和装と協会が揉め訴訟になった事案もあったりして、やはり皆様には皆様の思いがあるみたいなので難しいなというふうに思っています。</p>
(委員)	<p>以前には、お茶会がされていて、お茶会や美術館の方も本の展示をするので展示ケースを置いてほしいというような話があるなど、2 団体とも活動しているという認識なのですが。一緒に行ったりしないですね。なんとか取り持てないかと思いますが難しいですね</p>



直方市文化芸術審議会 第1回会議 議事録

(会長)	最後第4章です。読んでいただいてご意見ありましたらお願いします。
(事務局)	<p>第4章の計画の推進ということで、4-1 市民民間団体と行政の共同推進ということで、本計画の推進には多様な主体との協働が不可欠です。計画の経営検討段階から性別、年齢、障害の有無等の多様な背景、立場を有する方々の声を広く取り入れる工夫を行い、市民共同、市民参画によるまちづくりを推進します。</p> <p>4-2 計画の進行管理と評価本計画に位置付けた目標・方向性の達成状況を把握するため、実施施策の取組の進捗状況や評価測定等に基づき自主的な評価を重ね、必要に応じて計画の見直し等を行うことにより、実効性の高い文化芸術振興施策を推進します。市民意識調査等を活用し、市民の満足度の向上に資する取組を検証しますとしております。以上です。</p>
(会長)	第4章最後のところですが、何かご意見ご質問等ございましたらお願いいたします。
(委員)	これから会議があります時に、資料をその場で渡されると、ついていけない部分がありますので、もしよろしければ前もって資料をお渡ししていただけると幸いです。
(事務局)	今回第1回ということで、提出が遅くなってしまい申し訳ありません。1週間前には資料として提供して、今回のご意見等を反映させたものをまた改めて提出をさせていただくというところと、こういった内容をするのかというのも式次第と併せて、事前にご準備いたしますので、よろしくお願いします。
(委員)	ありがとうございます。他に何かございますか。
(委員)	計画について時間が押していますので一言だけなのですが、ほかの自治体等よりも動きが進んでいるようなところもございまして、現在、糸島市がパブリックコメントに計画を挙げており、最終的な計画のページが35ページと、今回お配りいただいた資料は10ページ未満なので、まだまだ肉付けしていいのかなと思います。是非また委員の皆様、あるいは市民の皆様からいろんな声をいただいて、充実したものになっていければなと思います。糸島市では、市民の方と対話するとか、いろんなことを行っており、参考になる点があると思いますので、是非見ていただきたいです。

直方市文化芸術審議会 第1回会議 議事録

	<p>その他にかございますか。今後2月に1回、3月に1回と行っていきたいと思います。具体的な日時につきましては追って事務局からご連絡が来るとと思います。2月3月の後のゴールデンウィーク明けの日程調整は出ていないと思いますので、また委員の皆様には日程調整をお願いすることになるのかなという風に思います。</p> <p>最後に本日はありがとうございました。皆様他団体等の意見も伺いたいということですので、次回は所管課以外の職員や福祉関係部署の職員等の参加をお願いし、意見聴取する流れでよろしいでしょうか。</p> <p>(事務局)</p> <p>次回につきましては、重点対象項目として福祉という話が出ておりましたので、福祉と文化芸術のかけ合わせのような取り組みを一つの項目にしてよいかと思います。今お題を投げさせていただきましたが、委員の方もお考えいただけるかと思ひますし、次回2月は福祉部門の職員にもお越しいたゞき、福祉×文化芸術というお題で、意見を聞くような流れで進めていきたいと思ひます。</p> <p>(会長)</p> <p>福祉という分野は広く、今回高齢者についての話が多かったと思ひますが、私の同僚は糸島市で障害アートをやっている事例もありますので、是非委員の皆様におかれましても、福祉分野のいろんなことや何か文化芸術に関連することはないか考えてきていただけると幸いです。</p> <p>他に何か皆様からあるいは事務局からございますか。ないということですので、本日開催の文化芸術審議会はこれで開かせていただきます。長時間ありがとうございました。また引き続きよろしくお願い致します。</p>
--	--